

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0195300207		
法人名	株式会社ハンループ		
事業所名	グループホームあとれ		
所在地	北海道網走市呼人519番地17		
自己評価作成日	平成30年1月20日	評価結果市町村受理日	平成30年8月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームでは入居者の方が一方的に介護を受けるのではなく、職員と共に自分のペースで日常生活が送れるように支援していきます。今後は、今以上にかご家族との関係作りを進めていき生活状況の定期的な報告や行事への参加を呼びかけるなど、信頼関係の構築に努めていきます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://hw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=0195300207-008">http://hw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=0195300207-008</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	平成30年7月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成29年8月より法人が変更になり、グループホームの名称も、フランス語で柔らかいを意味する『あとれ』と変わりましたが、職員等はほとんど変わる事無く運営されています。2階建2ユニットの事業所では、1階ユニット、2階ユニットの枠はあっても、管理者、主任が中心と成り柔軟に対応し、話し合いを密にしながら職員間のコミュニケーションを取り、事業所の大きな変化に対応する様に努め、何よりも利用者を中心にお互いに支え合う事業所と成る様に取りくんでいます。法人変更時に新たに作成した理念は、利用者、家族、地域との繋がりを大切にしたい支援に取り組む事を掲げていますが更に、もう少し短く端的に自分達の目指す介護を表す事が出来ないかと、模索し検討しています。毎月、今月の目標、今週の目標を定め、職員が方向を同じくした介護、運営をする様になっています。現在、施設長、管理者は職員と協力しながら運営の一つ一つを、これまでの取り組みを大事にしながら見直し、新たに積み重ねて利用者や家族の安心に繋げ笑顔のある穏やかな暮らしの提供を目指しています。調理専門職員や夜勤専門職員を配置し、日中職員が利用者と同じく時間を多く確保出来るように配慮しています。職員は利用者を尊重し、利用者本位の介護提供を心掛け、事業所内はゆったりとした穏やかな雰囲気と成っています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフの発見と事業主、管理者が共に目指すものを具体的に考え人間らしく自然に生活できるサービスを表現している。職員の目につくところに理念を置いている。	平成29年8月の法人変更時に代表者等で、利用者、家族、地域と連携し利用者本位の介護提供を掲げた理念を作成し、廊下や重要事項説明書に明示しています。現在、もう少し、端的な理念になる様に検討しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所との交流は難しい様子だが、事業所が何をしているのか知って頂く機会を作っていく。定期的な広報の配布検討など。	町内会に加入し、町内行事の清掃等に管理者が参加し、事業所の理解に繋がっています。地域のお祭りでの交流や事業所行事に参加を呼び掛け相互交流に努めています。ボランティアや実習生の受け入れにも取り組んでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者変更になり町内会の参加はまだ、未実施のために今後、地域との関わりを見直しする。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を利用して、地域の方にも気軽に参加してもらえるような取り組みを目指し、町内会長さんや、民生委員の方にも意見を頂けるようにしていく。	利用者家族、町内会役員、民生委員、地域包括支援センター職員、行政職員等をメンバーとして開催し、状況報告や質疑応答等話し合われています。	事業所を理解して頂き、更なるサービス向上に活用して行く為に定期的に開催し、家族の参加を促すと共に、話し合われた内容を家族、職員と共有して行く事を期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者が更新書類提出の際や頻りに市役所に行き現在の事業所の様子等を伝達している。	行政職員が運営推進会議に参加しており、常に、相談や情報交換を行い、連携を図り運営に活用しています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在は危険行為に及ぶ入居者はいないが、職員間でこれは身体拘束になるのではないかなど常に話し合い理解するように努め、新しく身体拘束防止委員会を立ち上げる。	今年度、マニュアルを整備し、年3回更に必要に応じ身体拘束防止委員会を開催する事としています。職員は身体拘束が及ぼす弊害を理解しており、状況に応じ話し合いながら身体拘束をしない介護に取り組んでいます。身体拘束や虐待防止の研修には積極的に参加する予定と成っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期ミーティング等で全職員に伝達していると共に日頃より管理者、主任より職員へ助言を行い、一人一人注意するように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在入居者に成年後見人制度利用者がおり、今後2Fも成年後見人制度を利用するか検討されている方がいるので管理者、職員も必要性の理解に取り組むために施設内で勉強、ミーティングを開催する。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に必ず重要事項説明を行いその場で不安、疑問等に対して説明し納得して頂いた上で契約を行っている。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々サービス提供の中で入居者本人の不满、不安、苦情等があれば、時間を置かず解決するように取り組んでいます。面会時には管理者、職員が挨拶に必ず行くようにしている。	家族の面会時には利用者の状況を伝えており、遠方の家族には手紙や電話で様子を知らせ、希望や要望の把握に努めています。事業所便りの発行を検討しています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングにて、各自議題を持ち寄り職員全体で考える機会を設け反映させている。	代表者、施設長、管理者は毎月の会議時や日常業務時に職員の意見や提案を把握し業務や運営に反映する様に取り組んでいます。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員に対しての声かけを重視し、体調やメンタル面でのフォローに取り組んでいます。給与面の考慮も職員の努力が反映できるように努めている。職員間の相談などは管理者がいつでも聞けるようにしている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期ミーティングを充実させるために、今後研修会の参加を今以上に取り組んでいくようにする。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が中心となり定期的に行われている市内グループホーム部会へ積極的に参加常勤、パート問わず他事業所の職員と意見交換や交流の機会を設けている。			
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	情報提供の病院や担当の介護支援専門員が間に入り本人の面会時等、家族、担当者の許可がある際には積極的に意見を聴くよう努力している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人を含めた、家族の問題を主に出来る限り面談方式を取り入れ、家族の立場に立って思いを受け止める努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の出来る事出来ないことや、家族の要望を正確に把握し、施設内や他のサービスを視野に入れ調節するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に料理し、入居者から方法を教わったり、その際にも昔の方の知恵を教わり、協力して物事をやり遂げるなど日頃より良い関係が築かれている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に家族には本人の現状を報告させてもらい家族との架け橋になるように努めている。忙しくて来棟が難しい家族にも出来るだけ現状報告のための連絡はさせて頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔見慣れた場所等を中心に外食など定期的、希望時に訪れ、入居者本人から上手に伝えられない入居者は、病院受診後など積極的にお誘いし対応している。	友人が訪ねて来た時には歓迎し、写真を撮って楽しめる様に支援しています。お花の先生だった利用者にはお花を活けて貰ったり、利用者のこれまでの関わりや特技、習慣を大切にした支援に取り組んでいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り話題を提供、又日々の心情の変化等も気付くよう努力し笑顔のある生活を営めるよう対応している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人退居後も他事業所に移られた際等、面会を行い人としての関わりを大切にしている。又退居後の再入居の相談も積極的に対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	信頼関係を築き、何でも話せる環境作りや、思いや意向を聞き取り実践できるようにしている。	家族からの情報やアセスメント、利用者との日々の会話の中から、利用者、家族の思いや暮らし方の意向を把握する様に努め、実現に向け職員間で検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者情報として生活歴、既往歴等本人の生活スタイルの把握しており家族としての役割、職員としての役割を両立している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の残存能力を第一に考慮し出来るところは独自で行っていくことを基本とし生活の中から新しい力を見出せるよう日々観察を行っている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成にあたり受け持ち職員と介護支援専門員を中心に専門的助言を組み入れ自立した生活を自然に送られるよう本人にも確認し、完成した計画は御家族の確認を頂いている。	利用者、家族の意向や要望を把握しモニタリング、職員によるカンファレンスを参考に状況に即した介護計画を作成しています。施設長、管理者は生活記録の記入に当たり利用者の顔の分かる記録をと、指導に努めています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿った生活記録を行い計画実施について本人の様子を含めて記載しており、気づき、発見がある場合は都度会議を行い計画に盛り込んでいる。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家庭的な雰囲気、季節感を大切に、その時折々のお花、写真等も飾り、日々の暮らしが豊かになるように務めている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の町内会などに参加させてもらいながら、住民の方との交流を図るよう今後していきたい。消防や警察、病院などとも連絡を取りながら、安心して暮らせるように努めていく。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の希望を優先させてもらっている。掛かりつけ医の把握と連絡などは密に行い、月1回、訪問看護による医療連携体制を取っている。現在は訪問診療も調整中。	通院介助にて病院へ送迎し家族が受診対応する利用者もあり、受診内容の報告を受け情報を共有しています。往診や月1回の訪問看護により利用者の健康管理などが行われています。緊急マニュアルを構築し救急時にスムーズに対応できるよう取り組んでいます。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	今年度より医療連携体制を訪問看護事業所に依頼、定期的に入居者の健康管理や医療的な支援、緊急時の対応を行っている。又介護計画の助言も頂いている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合、入院先担当の医師又は看護師より情報を頂き早期退院出来るよう家族と話し合い、医療連携体制より看護師の意見を併せ的確にご家族に伝達させて頂いている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	身体機能低下に伴い著しく生活に影響が出てきた場合都度家族へ報告、今後についての対応策などかかりつけの病院を含め話し合いを行っている。	協力医療機関との連携を図り、利用者や家族の想いや意向に沿えるよう努めています。今後は職員の看取りに関する理解や取り組みを重要と考えスキルアップを目指しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内にて緊急時マニュアルに沿い対応し、医療機関への迅速な連携を実施している。ミーティングでの話し合いには、常に議題に上げるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、防災訓練を実施している。今後の訓練は運営推進委員会と併せて行う予定スプリンクラーや火災報知器の点検は定期的に業者をお願いしている。	夜間想定で避難訓練を実施しています。発電機や懐中電灯、毛布など準備しています。レスキューキャリアマットがありますが、使用に関しての問題点が課題で使用方法の工夫を検討しています。	その他の災害のマニュアル整備、避難方法、地域住民の参加、協力体制の構築を期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者に対してあまりにも他人行儀にならず、最低限失礼のない声かけを徹底し記録物に関しては入居者の目に直接入らないよう配慮している。	利用者一人一人に合った声掛けを心掛け、大きな声で呼ばず耳もとや居室で話をするなど人格や尊厳を損ねないよう努めています。個人ファイルは棚に収納しプライバシー確保に配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者本位で時間をかけて自発語を尊重し何気ない会話の中でも本人の表情を見逃さず入居者、職員が共に自然に笑顔になるよう声の大きさ、目線等に配慮して対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護度の重い方や体調の悪い方中心になりがちであるが、目配りしながら一人一人リズムに合わせた生活を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性入居者は基本的に髭剃り、調髪、女性入居者は服装に気を配り希望時や外出時は、清潔感のある身だしなみを心がけている。本人の化粧水やブラシなど手の届く場所に置いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の出来るところを尊重し、食器拭きなどを自分の仕事としてして下さる方もいる。食事に楽しみが持てるように、好みの献立なども聞きながら取り入れていくようにしている。	利用者の好みや希望、旬の物を取り入れ、調理専門の方が調理しています。ブラックボードに本日のメニューを書き利用者や家族にも分かるように掲示しています。利用者と職員は一緒に食卓を囲み、誕生日にはケーキを食べ、家族との外食など楽しい食事になるよう支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分確認表を活用し、職員同士日常で声を掛け合い対応している。職員間の話し合いは常に行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後洗面台にて口腔ケアを行っている。又週/1回義歯洗浄剤使用し、義歯洗浄、ブラシ、コップ等は消毒液にて行い保清に努めている。訪問歯科の協力も今後検討している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限り本人の安楽で自立した排泄を目指す。入居者個別に排泄誘導行い対応又、トイレ内でのつかまり立ち等自立支援のため便器正面に手すりを設置対応している。	食前食後に自力でトイレに行く利用者もいます。排泄状況を把握し、出来るだけトイレでの排泄を促し自立に向け取り組み、羞恥心に配慮した声掛け誘導を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腹部マッサージなど自然な排泄を促し介護計画に組み入れ適度な運動も行っている。便秘状態の長い場合は医療機関に相談など行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	無理に勧めることなく馴染みの職員が都度対応、入居者に自然に入浴して頂ける対応をしている。入浴時間は基本的に毎日昼食後からであるが希望があれば、その都度考慮している。	昼食後に入浴していますが、利用者の希望に応じて気持ち良く入浴出来るよう取り組んでいます。移動・移乗が困難な利用者には2人介助で対応し、ゆっくり寛げるよう配慮しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的には就寝時間を設けているが、本人の希望や、安心して入眠出来るようリネンの清潔、室内の室温、空調には気をつけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時は必ず職員同士声を出し合い確認表を活用し誤薬防止に努めている。受診時や緊急時等かかりつけの医師に現状の様子を都度報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中から本人の意欲や潜在能力として引き出せる事を積極的に行って頂き、掃除、日々の運動等いつでも行えるよう対応している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望を優先し出来る限り外出の機会を設けている。又自発的外出希望を上手く伝えられない方や外出頻度の少ない方は定期受診等の帰りに積極的に誘いし外食、買い物等を促している。	天候や利用者の状態に応じて庭を散策したり、買い物や菊まつり見学、呼人夏祭りの神輿が練り歩き事業所前で見たり、出来るだけ外出の機会を設けるよう取り組んでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	以前は預かり金としてお金を預かっていたが、4月から本人の必要な物は立替をして、請求書と一緒に請求させて頂いている。本人が使いたいときは都度、家族に報告させて頂くことにするが、現在はまだ無い。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	定期的にホームでの入居者の様子を来棟時にスタッフがお話しさせて頂き、何か必要な物がある場合などは、手紙や電話をかけさせて頂いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごと壁などに季節感のあるものを入居者の方と一緒に作成、掲示したり外出時等入居者が摘んだ花などを室内に飾り楽しまれている。	庭の花を思い思いに活けたり、行事の写真や季節の飾り、華やかな飾り付けがなされゆったりと、穏やかな雰囲気を利用者と職員が和気あいあいと楽しく笑顔にあふれ居心地良く過ごしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室に大、小がありそれぞれソファ設置しているので用途に応じて対応している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご本人の自宅で実際に使用していたものを持参して頂いており使い慣れた物、見慣れたものを利用し生活されている。	居室には、クローゼットの設置や使い慣れた筆筒、テレビなどが持ち込まれています。趣味の読書を楽しむ利用者があり、今までの生活習慣が継続できるよう配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ内、脱衣所、浴室等安全で自立を目的とした手すりを設け状況に応じて見守りを行い、出来る限り自分の力で行って頂くよう対応している。トイレ、居室等、混乱しやすいところには目印を作り、職員の声かけと併せて対応している。居室の前に名前をつけさせて頂いている。		